

## 在職 40 年を振り返って

峰村 勝弘



私は 1974 年 4 月に本学に参りました。以来 40 年にわたって数学の教育…講義、演習、卒業研究（ゼミ）、その他に係わっ

てまいりました。その中で最も印象的で、意義深いと考える、卒業研究（報告・発表会）について感ずるところを述べたいと思います。本稿では卒業研究報告を”卒論”、卒業研究発表会を”卒論発表会”と書くことにします。

私が自分自身学部学生であった時は、本学の卒業研究にあたるものはゼミしかなく、報告にあたるものはありませんでした。一般的に言って学部の学生が数学の”論文”を書けるはずもありませんから、本学の卒論発表会の意義は理解しても報告としての”卒論”の意義は理解できませんでした。しかし就職した初年度のゼミの指導の中で、ゼミの学生の卒論に取り組む姿勢を見て、本学における卒論およびその発表の意味および重要性がわかってきました。学生はそれまでの（3年間を超える）受け身の勉強から自発的な勉強・研究・発表により、在学中に得たものを（おそらく最後の数か月間に）自ら積極的に他人に伝えるという素晴らしい経験をするようになるのですね。この、本学の”卒論”の意義は、失ってはいけない、大きな意味を持つ科目と思います。

この”卒業研究”に関連して思い出す TV ドラマがあります。私は 2 年ほど前に TV ドラマ”のだめカンタービレ”について物理の黒澤先生から伺い、家の近くのレンタルショップで借りました。私はもともとクラシックが好きでしたからこのドラマにはまってしまい、すべて有るだけ借りて一気に鑑賞してしまいました。

このドラマは、若い人たちが音楽を通じて成長

する物語ですが、やはり数学の教育と関連で共感するものがありました。

一つ目は、数学も（クラシック）音楽も抽象化された世界での人間の営みであることです。数学における、数・量・形など、音楽における音程・音色・強弱などがそうです。

二つ目は、ある種の実技の力が必要なことです。数学の場合は、数学を理解することと計算などの力があることとは、密接な関係があります。また、音楽ならば音楽理論と同時にある楽器がちゃんと演奏できることも、おそらく必須ではないかと思っています。

ドラマでの実技教育は、数学では演習や卒論ゼミにあたります。”のだめカンタービレ”の第 4 巻の冒頭から測って 23 分 46 秒から 24 分 32 秒まで、ピアノ科おちこぼれ教師の谷岡先生が、主人公の一人”ちあき”に語る場面があります。音楽理論などの勉強もせず、ピアノ演奏も楽譜に忠実でない、もう一人の女性主人公”のだめ”を谷岡先生が担当してきたのですが、あるとき、スパルタ教師の江藤先生が”のだめ”の演奏を聴いて、自分が”のだめ”の教育を担当することを望み、谷岡先生がそれを承知したことを、”ちあき”が咎めるシーンです（意味がよくわからない方は、どうぞこの巻だけでもご覧ください）。

『僕はね、

やる気のない生徒に

やる気を出させるほど

やる気のある教師じゃないんだよ。

でも、生徒は大事なお客様だから、

生徒の夢や希望をかなえる為の

努力や協力はしてやりたい。

その結果、僕は 3 年間

もじゃもじゃ組曲やら

おなら体操なんかの指導に

尽力してしまっただけです。

だから僕の教師としての本心から言えば

のだ君がいやがるなら  
江藤君には渡したくない。  
でも、最近なにかが  
変わってきた気がするんだ、のだ君。  
本人は気付いていないかもしれないけど、  
なにかが。  
それ、見てみたいんだよね、一個人として。』

私はこの言葉に（斜体の部分に特に）感動しました。4行目に「やる気のある教師じゃないんだよ。」と言っていますが、「そんなことはない。教育における”タイミングというもの”をよく知っている」教師の言葉に思えます。また、一方のスパルタ教師の江藤先生も、谷岡先生の分身のように思えてなりません。江藤先生という存在がもしもなかったら、谷岡先生ご自身が江藤先生の役割を果たしていたことでしょう。

卒業研究および関連するゼミ、その他演習科目は教員が直接学生と対話する重要な時間です。数学教室はこれらの科目を大事にしていきたいし、また、学生の皆さんは”出席すれば単位は取れる”などと考えず、自分を本当に伸ばす重要な科目と考えるべきだと思います。

最後に蛇足ですが、谷岡先生の言葉を私流に書き換えて終わりにしたいと思います。

『僕はね、  
やる気のない生徒に  
やる気を出させるほど  
やる気のある教師じゃないんだよ。  
でも、生徒は大事な一人の人間だから、  
生徒の夢や希望をかなえる為の  
努力や協力はしてやりたい。  
その結果、僕は長年  
卒業研究やら  
複素解析・位相などの演習に  
頑張ってしまったんです。  
・・・（中略）・・・  
でも、最近なにかが

変わってきた気がするんだ、〇〇君。  
本人は気付いていないかもしれないけど、  
なにかが。  
それ、見てみたいんだよね、一個人として。』

\*\*\*\*\*

## 定年退職記念品への御礼

峰村 勝弘

日本女子大学数学同窓会の皆様。私は1974年4月に本学に奉職し、以来40年、数学の教育に携わってまいりました。そして去る2014年3月末日をもって、日本女子大学を定年により退職いたしました。私の定年退職につきまして6月7日の同窓会総会の折に、わざわざ懇親会を開いて頂き、さらには記念品として、デジタルカメラをお贈り頂き、大変うれしく喜びに堪えません。ここに厚く御礼を申し上げます。

カメラの選択につきましては、わがままを申し上げて、私が好きなメーカーFUJIFILMのミラーレス一眼デジタルカメラX-T1を選ばせて頂きました。



写真歴は30年以上になりますが、デジタルカメラは1996年頃から使い始めました。以来6機種コンパクトデジタルカメラを乗り換えてきましたが、今回、初めて”\*\*一眼”と呼ばれるカメラを選ぶことになり、今までの4メーカー6台のうち、FUJIFILM製の2台の発色がよかったので、同社製のX-T1を選びました。実際に写真を撮影したところ、やはり素晴らしい色の写真が得られ、大変満足しています。退職後は自由な時間が増えましたので、このカメラで同窓会のホームページにアップロードできるような傑作を撮りたいと思います。

皆様、有難うございました。

\*\*\*\*\*